

再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：環境安全・防災課

担当課長名： 渡辺 学

事業名	空港・港湾等アクセス 主要地方道 清水富士宮線（庵原～伊佐布）		事業区分	地方道	事業主体	静岡市
起終点	自：静岡市清水区庵原町 至：静岡市清水区伊佐布			延長	2.9 km	
事業概要	主要地方道清水富士宮線は、国道149号（静岡市清水区）から国道139号（富士宮市）に至る南北の幹線道路である。庵原～伊佐布間は、中部横断自動車道の開通により交通量増加が見込まれる清水いはらICから清水港にアクセスする道路として都市計画決定された路線であり、現道の交通混雑の緩和とともに、整備が進む清水港へのアクセス向上を目的として、バイパス整備をするものである。					
H22年度事業化	H3年度都市計画決定		H22年度用地着手		H22年度工事着手	
全体事業費	約145億円		事業進捗率	約93%	供用済延長	約1.0km
計画交通量	16,400台/日					
費用対効果	B/C (事業全体) 1.9	総費用 (残事業) / (事業全体) 12 / 158億円	総便益 (残事業) / (事業全体) 308 / 308億円	基準年 令和元年		
分析結果	(残事業) 24.7	事業費 : 11 / 156億円 維持管理費 : 1.9 / 1.9億円	走行時間短縮便益 : 269 / 269億円 走行経費減少便益 : 36 / 36億円 交通事故減少便益 : 3.0 / 3.0億円			
感度分析の結果	(事業全体) 交通量 : B/C=1.8~2.1 (交通量 ±10%) (残事業) 交通量 : B/C=21.3~26.1 (交通量 ±10%) 事業費 : B/C=1.8~2.2 (事業費 ±10%) 事業費 : B/C=22.7~26.9 (事業費 ±10%) 事業期間 : B/C=1.9~2.2 (事業期間±20%) 事業期間 : B/C=23.7~25.4 (事業期間±20%)					
事業の効果等	<交通の円滑化やアクセス向上> 清水港へのアクセス性が向上し、物流ネットワークが強化され、物流の効率化が期待される。 <交通事故減少> バイパスへの交通転換により、並行区間である現道の死傷事故の減少が期待される。 <緊急搬送の安定性向上> 第二次緊急医療機関（清水厚生病院）への所要時間が短縮され、緊急搬送の安定性向上が期待される。					
関係する地方公共団体等の意見	第2次静岡市のみちづくりにおいて、南北交通ネットワークの強化、高速道路ICのアクセス道路整備として位置付けられている。					
事業評価監視委員会の意見	事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	中部横断自動車道（新清水JCT～富沢IC）が平成31年3月に供用し、物流上重要な道路輸送網として機能強化を進める必要がある。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地取得率 約100%、事業進捗率 約93%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	用地の取得が完了していることから、早期完了を目指し道路改良工事を推進していく。					
施設の構造や工法の変更等	発生土については、清水港の埋立事業や民間事業へ再利用を図る。 舗装・構造物の基礎等については、再生材を使用するなど可能な限りコスト縮減を図る。					

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらず、物流ネットワークの強化や他地域との交流に大きく寄与する道路として市民の期待も高いため。

事業概要図



凡例	
	事業中
	該当箇所



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。